

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛厚新生寮	階数	地上2F
建設地	愛知県半田市鴉根町二丁目104番	構造	RC造
用途地域	指定なし、22条地域	平均居住人員	190人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 竣工	評価の実施日	2016年7月20日
敷地面積	27,074 m <sup>2</sup>	作成者	戸崎 仁志
建築面積	2,879 m <sup>2</sup>	確認日	2016年7月30日
延床面積	4,656 m <sup>2</sup>	確認者	戸崎 仁志



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.3

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.0

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.1

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>43.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>3.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>県産木質内装材</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
  - LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
  - Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
  - LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
  - Q-3 1 生物環境の保全と創出
- ④地域材の活用
  - Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
RC造、間仕切壁においては下地2重貼、居住棟:間仕切RC造				3.0	0.15	2.9	1.00	2.9
1.2 遮音								
開口部遮音性能				3.0	0.40	2.8	0.40	
1 1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30	
2 2 界壁遮音性能				3.0	0.60	3.0	0.30	
3 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	2.0	0.20	
4 4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音								
				1.0	0.20	1.0	0.20	
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
ゾーンごとに冷房・暖房の制御が可能				3.3	0.50	3.0	0.50	
1 1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	
2 2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43	
3 3 ゾーン別制御性				4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御								
				3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式								
				3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
				3.5	0.25	3.0	1.00	3.3
1 1 昼光率				3.0	0.30	3.0	0.30	
2 2 方位別開口				3.0	0.60	3.0	0.60	
3 3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策								
1 1 昼光制御				3.0	0.30	3.0	0.30	
				3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度								
				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御								
作業・ベッド単位ごとの照明制御ができ、事務室等においては調				5.0	0.25	3.0	0.25	
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面に採用				4.4	0.25	4.2	1.00	4.3
1 1 化学汚染物質				5.0	0.50	5.0	0.63	
2 2 アスベスト対策				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気								
1 1 換気量				3.0	0.30	3.0	0.38	
2 2 自然換気性能				3.0	1.00	3.0	0.50	
3 3 取り入れ外気への配慮				-	-	3.0	0.50	
4.3 運用管理								
1 1 CO <sub>2</sub> の監視				5.0	0.20	-	-	
2 2 喫煙の制御				5.0	1.00	-	-	
建物内は全面禁煙				5.0	1.00	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
個室8.96㎡以上、多床室8.32㎡を確保				4.0	0.40	3.0	0.60	
1 1 広さ・収納性				-	-	3.0	1.00	
2 2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	
3 3 バリアフリー計画				4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性								
天井高さ2.5mを確保し、採光に有効な開口部の設置がある				4.0	0.30	4.0	0.40	
1 1 広さ感・景観				-	-	4.0	0.50	
2 2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3 3 内装計画				4.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理								
1 1 維持管理に配慮した設計				3.5	0.30	-	-	
2 2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
3 3 衛生管理業務				4.0	0.50	-	-	
清掃はボランティアにて行われ、控室等維持管理に必要な設備				4.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震								
保有水平耐力計算においてせん断力×1.25の割増を行い検討を				3.8	0.48	-	-	
1 1 耐震性				4.0	0.80	-	-	
2 2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数								
躯体材料の耐用年数				3.3	0.33	-	-	
1 1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.23	-	-	
3 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				5.0	0.09	-	-	
4 4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 5 空調・給排水配管の更新必要間隔				4.0	0.15	-	-	
6 6 主要設備機器の更新必要間隔				4.0	0.23	-	-	
給水:D、排水(汚水・雑排水):C、通気:Aを採用 前項の配管期待耐用年数の平均値より35年				4.0	0.23	-	-	
2.4 信頼性								
1 1 空調・換気設備				3.2	0.19	-	-	
2 2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3 3 電気設備				5.0	0.20	-	-	
4 4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5 5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
精密機械の水浸対策や、災害時の有線電話、TVの設置を行っ				2.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり								
基準階階高4.0m				4.6	0.31	4.2	0.50	
1 1 階高のゆとり				5.0	0.60	5.0	0.60	
2 2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり								
				3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性								
天井スペース確保、点検口設置を行い、仕上を傷めずに作業がで				3.5	0.38	-	-	
1 1 空調配管の更新性				4.0	0.17	-	-	
2 2 給排水管の更新性				4.0	0.17	-	-	
3 3 電気配線の更新性				3.0	0.11	-	-	
4 4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	
5 5 設備機器の更新性				4.0	0.22	-	-	
6 6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22	-	-	
水廻りビット設置による更新性の確保を行った。				4.0	0.22	-	-	
				3.0	0.22	-	-	

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>								
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		運動場や集会室の開放、県産材の採用、防犯カメラの設置を行	5.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>								
<b>LR1 エネルギー</b>								
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPlm=0.71	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				4.0	0.30	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)			モデル建物法での評価BPlm=0.71	4.0	1.00	-	-	-
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	-
4 効率的運用				2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制				1.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>								
1 水資源確保				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.63	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	独自	-	3.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		県産材の採用	3.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.22	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68	-	-	-
1 消火剤			ハロン消火剤を使用していない	4.0	0.33	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33	-	-	-
3 冷媒				3.0	0.33	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>								
1 地球温暖化への配慮	①	独自	ライフサイクルCO2概算値:83%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自		調整池の設置600A	4.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制	独自		敷地内に職員駐車台数確保、送迎バス庫確保	5.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-
1 騒音	独自			3.0	0.33	-	-	-
2 振動	独自			3.0	0.33	-	-	-
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-

## 排出係数の設定

標準計算に用いる電力の排出係数(設定値)

電力事業社名/根拠等	排出係数
中部電力株式会社	0.000516 t-CO <sub>2</sub> /kWh

(1) 評価条件として、与えられた排出係数を用いる場合

電力事業社名/根拠等	排出係数

 (t-CO<sub>2</sub>/kWh)

(2) 温暖化対策推進法に基づく温室効果ガス排出量の算定方法を参考とする場合

① 電気事業者(一般電気事業者及び特定規模電気事業者(PPS))から供給された電気

事業者名	排出係数
中部電力株式会社	0.000516 t-CO <sub>2</sub> /kWh

② その他

電力事業社名/根拠等	排出係数

 (t-CO<sub>2</sub>/kWh)

③ 代替値

根拠等	排出係数
代替値	

 (t-CO<sub>2</sub>/kWh)

(3) 上記以外の場合

電力事業社名/根拠等	排出係数

 (t-CO<sub>2</sub>/kWh)

平成24年度の電気事業者別実排出係数等の公表値

◇算定省令に基づく電気事業者ごとの実排出係数及び代替値

[1]実排出係数

北海道電力株式会社	0.000688
東北電力株式会社	0.000600
東京電力株式会社	0.000525
中部電力株式会社	0.000516
北陸電力株式会社	0.000663
関西電力株式会社	0.000514
中国電力株式会社	0.000738
四国電力株式会社	0.000700
九州電力株式会社	0.000612
沖縄電力株式会社	0.000903
イーレックス株式会社	0.000603
出光グリーンパワー株式会社	0.000086
伊藤忠エネクス株式会社	0.000676
エネサーブ株式会社	0.000616
荏原環境プラント株式会社	0.000456
王子製紙株式会社	0.000475
オリックス株式会社	0.000762
株式会社イーセル	0.000000
株式会社エネット	0.000429
株式会社F-Power	0.000525
株式会社G-Power	0.000441
株式会社日本セレモニー	0.000797
サミットエナジー株式会社	0.000438
JX日鉱日石エネルギー株式会社	0.000367
JENホールディングス株式会社	0.000494
志賀高原リゾート開発株式会社	0.000312
昭和シェル石油株式会社	0.000367
新日鉄住金エンジニアリング株式会社	0.000655
泉北天然ガス発電株式会社	0.000388
ダイヤモンドパワー株式会社	0.000431
テス・エンジニアリング株式会社	0.000494
東京エコサービス株式会社	0.000092
日本テクノ株式会社	0.000508
日本ロジテック協同組合	0.000486
パナソニック株式会社	0.000498
プレミアムグリーンパワー株式会社	0.000018
丸紅株式会社	0.000378
ミツウロコグリーンエネルギー株式	0.000366
リエスパワー株式会社	0.000420 (t-CO <sub>2</sub> /kWh)

[2]代替値

代替値	0.000550 (t-CO <sub>2</sub> /kWh)
-----	-----------------------------------

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

愛厚新生寮

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.5	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:43%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>3.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	県産木質内装材

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1